志津南学区・地区防災計画策定支援

資料①

議事録（第２回）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　日時：令和7年7月11日(金)　19時-

　　　　　　　　　　　　　　　　　　場所：志津南まちづくりセンター

１．出席者

コアメンバー：四方さま、高岡さま、佐藤さま、河辺さま、白瀧さま、

大脇さま、中作さま、北村さま

志津南まちづくりセンター：長谷川さま

立命館大学：金先生

立命館大学学生：６名

草津市危機管理：川元さま、伴さま、小川さま

関西情報センター：坊農、西田、別所（記）

２．四方会長挨拶

本日の会議では、議論の叩き台となる資料を用いて、コアメンバーによる検討を行い、次回ＷＳで成果を確認する。

３．配布資料確認

【資料】

・特別委員会答申の地図→第２回検討完了

・災害時の行動および情報連携の流れ→第２回検討完了

・災害対策本部立ち上げ基準→第２回検討完了

・災害対策本部の体制（１）→第２回検討完了

・災害対策本部の体制（２）→第３回以降検討

・志津南災害対策本部の役割→第３回以降検討

・情報集約体制→第３回以降検討

・安否確認方法→第３回以降検討

・広域拠点について→第３回以降検討

・指定避難所の開設・運営・閉鎖までの流れ→第３回以降検討

・＜参考＞草津市避難所開設キット→第３回以降検討

・＜参考＞トランシーバーのススメ→第３回以降検討

【説明】

・配布した資料は細かく書かれているがあくまで例であり、叩き台である。志津南に合った計画になるようブラッシュアップしていきたい。

・各テーブルに配布しているＡ３の紙に、ピンクの付箋：課題、青の付箋：対策、黄の付箋：達成プロセスを貼っていっていただきたい。

４．志津南での地震被害想定と広域避難所情報（関西情報センター：別所）

　【説明内容】

・南海トラフ地震の発生確率は30年間で80%、その際の草津市の震度は６強と想定されている

　　・琵琶湖西岸断層帯による地震の発生確率は30年間で～3%、震度７が想定されている

　　・家屋や住民の被害想定・避難所や収容人数について、草津市からの情報をまとめ報告があった

【質疑応答】（Ｑ：質問　Ａ：回答　Ｏ：意見）

Ｑ．草津市が作成している被害想定でピーク時と冬深夜と設定されているが、これはどのような意味なのか

Ａ．「ピーク時」という言葉は一番避難者が多いと想定されている時間の状況を想定したものです。「冬深夜」は、季節と時間帯（朝、昼など）で被害を想定し計算した結果、一番被害が多く想定されたのが「冬の深夜」であり、その結果を記載している

Ｏ．補足として、全壊と半壊の被害件数だが、地区全体で戸建が1,800件とすると全体の約３割となる被災状況であり、決して小さい被害ではない。特に追分南3丁目、追分南6丁目など古くから建築された建物が多い地区は、建物の建築時期が古いことも関係していると思われる

Ｑ．データも大事だが、細かい定義まで踏み込む必要ではないのではないかと思う。避難所の避難者数が算出されているが、地震発災直後は、避難する人が想定以上に多く出ると聞いている。避難所の環境が整う前に逃げてこられた方への対応は、その場で臨機応変にしなければならない。避難所の開設を行政がした後、どのように避難者を受け入れるのか、具体的に教えてほしい

Ａ．実際はわからないが、草津市の考え方として市全体で３割程度の住宅被害を想定、ただし学区・町内により被害状況は異なる可能性はある

1. ワークショップの内容

※こちらに記載している内容は、ＷＳで出た意見のみであり、まとめたものは次回ＷＳで報告する

○A班

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 課題 | 対策 | 達成プロセス |
| 昼夜で違いがある | 家具固定、寝室周りの安全確保、足元の安全確保 | 深夜・大雨・寒さなどの対策を考えておく |
| 家族でどこに避難するか | 子どもの行動も家族で認識しておく  子どもは学校で、大人は職場で安全確保できる | ― |
| 安否確認できるか  連絡方法はどうするか  SNSやバッテリーが使えるか | 家族が共有できる紙媒体（電話番号など）を作成 | ― |
| 移動中の安全をどうするか | 安全性の高い場所の把握 | ― |
| １次集合場所を知らない | １次集合場所を住民に認知させる（草刈りの時など） | ― |

○B班

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 課題 | 対策 | 達成プロセス |
| 班長が自身の担当分を確認するシステムがない  班長が安否確認を行うシステムが不明確・不明瞭  ご近所への声掛けも簡単なようで難しい | ― | ― |
| 高齢化で動けない  町内会長が高齢で動けない場合もある | ― | ― |
| 災害弱者にはどう対応するか  要介護者を班長しか把握していない  福祉施設入所の方への対応 | 要介護者の枠を超えて「声をかけて欲しいリスト」を作成する | 一人ひとりにアンケートを取る |
| 住民全員がどこに避難すればよいのか確認する必要がある | ― | ― |
| 自分の家の耐震性を知らない  自分の家の中の避難場所を知らない | 自助のなかで考えていく | ― |

【災害対策本部立ち上げ基準】

○A班

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 課題 | 対策 | 達成プロセス |
| 会長などは任期が最短１年  発災時に対策本部に会長等が来れるのか  町の一部の人しか防災訓練に集まらない  対策本部の人には地域の知識・災害の専門知識が必要 | 引継ぎをしっかり行う  人材育成し、リーダー的な存在を育てる  継続して町内会を開き住民の意識を高める（草刈りなど）  地区防災計画を２～３年で更新する | 若者向けには祭りの場で情報発信する  イベントの中で防災テーマを決めて話す機会を作り防災意識を高める |
| 追分と若草の２つ、地域性で分ける | ― | ― |

○B班

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 課題 | 対策 | 達成プロセス |
| 対策本部はまちづくりセンター、避難所は小学校など | ― | ― |
| 各町内会から情報をどう吸い上げればいいのか | ― | トランシーバーを活用する |
| 日曜はセンターが閉まっている、日によっては会長がいない | 会長の代行は副会長とする | ― |
| 地震発生時は名神がストップ、物資は届くのか | 志津南は細長いため追分南地区にはサブの避難所を設ける（追分南会館） | ― |
| 安否情報を具体的にどこに伝えればいいのか | ― | ― |

【災害対策本部の体制】

○A班

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 課題 | 対策 | 達成プロセス |
| 本部長・副本部長をまち協会長・副会長が担うとしても任期が最短１年である | 役職に就いた人は知識を身につける  知識のある人を役職に就いてもらう | 任命された人で勉強会を行う |
| 本部長・副本部長をフォローするリーダー的な存在が必要 | ― | ― |
| ボランティアを受ける班が必要 | ボランティア受け入れ班が必要 | 社会福祉協議会と交渉する班を作成する |
| マニュアルが細かすぎて瞬時に理解できない | 運営マニュアルの見直しを行う | ― |

○B班

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 課題 | 対策 | 達成プロセス |
| 本部長：まち協会長  副本部長：まち協副会長  事務局：センター長・センター事務職員  対外折衝リーダー：まち協会長兼務  災害対策メンバー：各町内会長 | | |
| 各町内会長では少し荷が重いのではないか | ― | ― |

６．金先生からのアドバイス

短い時間だったが、地区特性、社会特性まで網羅し検討していた。日常からの取り組みを中心に検討していただいたＡグループ、リーダーの育成を含め検討いただいたＢグループ。大変、実りある議論をしていただき、まとめるのが難しいと感じる内容であった。次回は水害についても触れたいと思う。

７．次回の予定（日時）

日時：2025年8月19日(火)19時～　コアメンバー会議

場所：志津南まちづくりセンター

以　上